



校長室だより

校長 山崎 聡子

縄跳びに挑戦

1月17日(水)から2月2日(金)を縄跳月間として、月・水・金の中休みに、全校で短縄に取り組んでいます。縄跳びカードを持ち、いろいろな技やそれぞれの技に記載されている回数を目指して、子供たちが一生懸命に縄跳びをしている姿に思わず笑みがこぼれます。体育委員会の子供たちの目の前で、縄跳びに挑戦する子供たちもいます。体育委員会の子供たちも、一人一人が達成できた所に印をつけてくれます。

「校長先生、見てください」と元気に声をかけてくれる子供もいます。自分が挑戦する技と回数を自分で決め、取り組む姿は真剣そのものです。先日「前跳びを100回挑戦します」と言う子がいました。「わかった、頑張ろう」と伝えると、こくりと頷き、挑戦開始です。今、何回跳んでいるのかが分かるで見通しが持てるので、回数を声に出して伝えていきました。50回を超えたところから少しずつ辛そうな様子になってきました。80回辺りで足も少しずつ上がらなくなってきたのですが、自分自身に気合を入れている様子が伝わってきたので、あと20回頑張れと心の中で応援しました。「100」という声で、目標達成です。「100」の声に合わせ、跳びきって、しゃがみこみました。やりきった、すがすがしい表情が素晴らしかったです。一緒にいた友達も、自分のことのように喜び「すごい!!」と大拍手を送りました。自分の体づくりとともに、目標を達成していく喜び、そのことを仲間と共有できる時間

となっている貴重な縄跳び月間です。

「生涯にわたって健康を保持・増進し、豊かなスポーツライフの実現を目指す」ということが体育の学習の基本方針として国から示されています。帝京大学教授の高田彬成氏は、「小学校の場合は、適切な運動の経験と健康・安全についての理解という二つのことを通して、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育て、健康の保持・増進と、体力の向上の三つのことを図り、楽しく明るい生活を営む態度を育てること」と明言されています。

体育の授業とともに、日常の生活の中で体を動かすことと心の充実を一体して捉えていくことができる工夫をし、楽しく明るい毎日を積み上げていけるよう努めていきたいと考えます。短縄の後には、大縄大会も計画されています。体育の授業等で、クラスごとに大縄の練習もしています。子供たちがどのような姿を見せてくれるのか、楽しみにしています。

美しい心を

先日、東京の湯島天神に足をはこび、鈴なりにになった受験生の絵馬の一つに目が留まった。くみんなが合格できますように>他人に勝つことより、自分に負けないことの価値を知る誰かなのだろう。

「編集手帳」 読賣新聞：2024.1.27

自分のことのように他者のことを考えることができる美しさが心の中にあるということに励まされます。真っすぐな心をもって生まれてきた子供たち。心にある種が豊かに実るよう支えていきたいと思ひます。